



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2015

11月20日号

149
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (659)1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

専門職の誇り



副会長 平井和子

今年度から、県技師会副会長を担当いたします。不慣れではありますが、皆さまにご協力いただきながら務めて参りますので、よろしくお願ひいたします。

さて、県技師会の会員数は現在約650名ですが、その内女性は約110名で、6人に1人は女性技師ということになります。実際には、非会員でない方もいますので、もう少し多いかもしれません。私が医療短大を卒業し、就職した三十数年前、女性技師は、私が知る範囲で県内に4～5名くらいの方しかいらっしやらなかったと思います。男性社会真ただ中に入り込んだわけですから、本当にいろいろなことがありました。

現在は、多くの女性が従事し、活躍されていますが、特に女性ならではの乳腺検査は、女性技師の腕の見せどころです。平成12年に厚労省が、乳癌検診にマンモグラフィを併用するとの指針を出してから、乳腺検査の環境が大きく変わりました。それをきっかけに、県技師会でも乳房撮影分科会（現在の乳腺画像分科会）が発足し、研究会の開催や乳癌検診の精度向上などのお手伝いを行ってきました。全国的には、精中機構のマンモ講習会が行われるようになりました。当時は、申し込み者が多く、なかなか受講できない時期が続きましたが、当時の会長の片倉さんが福島県開催を積極的に行い、また、歴代の会長のご尽力もあり、多くの方が受講できた経緯があります。東日本大震災まで、毎年1～2回県技師会主催で開催してきました。現在、東北地域では、A・B認定の有資格者数と施設画像認定施設数ともに福島県がトップで、今までの取り組みの成果であると思いません。今後は、その技術を維持していくことがたいへん重要です。

私は精中機構の技術委員を担当しておりますので、講習会では、多くの施設の画像を見ます。中には「有資格者なのに、この画像？」と思うようなことがよくあります。普段は撮影していないのに、更新講習会のために撮影してきたという方もいます。受診者に対し、たいへん失礼なことですし、ある意味、犯罪に近いものを感じることもあります。

最近TVで、北斗晶の乳癌が話題になっています。毎年秋に乳がん検診を受けていたにも関わらず、春には異常を感じており、見つかったときは2cm大、リンパ節にも転移をしていたとのことですので、かなり進行が早い癌なのだとは思いますが、検診のMMGで本当に写っていなかったのだろうかとの疑問にも思います。

私たちは、高いレベルでの専門知識や技術を身につけた専門職です。「自分が撮影した画像を、自信を持って提出できているだろうか？」常に、自問自答しながら、誇りを持って業務に取り組んでいかなければならないと思っています。

県技師会として、女性が理事に就いたのは、私が最初であるとのことですので、今後、特に女性会員の活動に、少しでもお役に立てればと思っています。

ご指導のほど、よろしくお願ひいたします

平成27年度 第3回理事会議事録

日時：平成27年9月18日(金) 14:00~16:30

場所：太田西ノ内病院5号館2階会議室小

出席理事：新里昌一 遊佐 烈 平井和子 堀江常満
菅野和之 鈴木雅博 森谷辰裕 秋山淳一
田中邦夫 佐藤政春 白石嘉博 佐藤孝則
佐藤佳晴

出席監事：片倉俊彦

欠席理事：阿部郁明 池田昭文

欠席幹事：高橋宏和

指名出席：事務局長齋藤康雄 事務局員笹川克博

平井副会長の司会で開会し、議長は定款により新里会長が就任し、議事記録に浜通り地区秋山理事、田中理事を指名して議事に入る。

1. 議事

1)

県北地区協議会の委員追加について

(佐藤県北地区協議会委員長)

角田氏が県北地区協議会委員とする旨の報告があり、理事会で承認された。

永年勤続30・50年表彰について (齋藤事務局長)

▶ 永年勤続30年表彰の候補者 (推薦承諾) は11名で、辞退者は10名である。

▶ 永年勤続50年表彰の候補者推薦は坂本弘道様 (磐梯町保健医療福祉センター) である。

▶ 日本診療放射線技師会功労表彰者として今野英麻呂様 (福島赤十字病院) を推薦する。

√ 永年勤続30年表彰を辞退した場合は、永年勤続50年表彰の対象者にはならない。

寄付の申し出について (新里会長)

福島県立医科大学前教授木村和衛先生より10万円を寄付する旨の申し出があり、受けることについて、規程に従い理事に諮ったところ、異議がなく承認された。ご厚意に対し感謝状を贈ることとし、会長がお渡しすることした。

2) 平成27年度事業計画について

各委員会等の事業計画の進捗状況

学術委員会 (佐藤孝則委員長)

11月の学術大会の進捗状況報告

募集期間を延長し29題の発表となった。6セッションで座長、タイムスケジュール作成した。一般公開

講演は県技師会HP、リビング福島、郡山コンベンションビューローに掲載する。

学術奨励賞はセッションの座長選出 学術委員会選考 理事会で決定。新人賞は学術委員会選考 理事会で決定。前日の会場準備は15時から行う予定。

生涯教育委員会 (堀江委員長)

業務拡大に伴う統一講習会が山形県で開催される。参加希望者は18名である。研修目的で福島県より2名派遣する。研修の旅費は福島県技師会が負担する。来年は福島県で開催されるため、山形県から2名派遣される予定である。

精度管理委員会 (佐藤政春委員長)

ピラニアが購入後3年経過したため、装置の校正を検討している。見積は本体のみで226,800円、本体+プローブで約50万円である。校正期間は約2ヵ月である。来年12月本体+プローブの校正をする。来年度の事業計画に入れる。

編集広報委員会 (平井委員長)

放技ニュースは奇数月に発行されるが、9月分が完成した。今後、放技ニュースの表紙や字体のデザイン、部分的なカラーを取り入れるなど多くの技師に読んでもらう工夫をする。カラーの場合は7~8万円/6ページで、プラス5000円程度で2色の配色になる。

ネットワーク委員会 (菅野委員長)

HP作成用ソフトをバージョンアップし、PCの他にタブレット/スマートフォンでも対応できるようになった。11月に委員会を開催予定。

調査委員会 (佐藤佳晴委員長)

県内の医療機関で電子カルテの導入率や技師会加入率をアンケート方式で調査する。

災害対策委員会 (遊佐副会長)

DOSEe-nanoを使用して環境省委託事業として個人被ばく線量測定を行ってきましたが、測定値や情報を開示することが出来ずにいた。そこで、当技師会では会員による放射線状況の把握や住民への正確な放射線量の把握、ホットスポット地点の注意喚起を目的に、独自に富士電気㈱からDOSEe-nano (5台) を借りることとした。

会津地区/浜通り地区のシンチレーションサーベ

イメージの校正を完了した。

平成27年度福島県原子力防災訓練は11月28日(土)にいわき市避難計画等に基づき、いわき市小川地区住民を対象として行う。8月30日に平成27年度福島県総合防災訓練(雲雀ヶ原祭場地)が開催され、スクリーナー6名が参加した。9月13日に平成27年度災害対策委員会(日本診療放射線技師会会議室)で開催され、遊佐烈副会長が出席した。

京都で開催される日本診療放射線技師学会大会でサーベイ実習を行う予定。また、診療放射線技師災害対応ネットワーク会議設立検討委員会設置、島根原子力災害訓練参加依頼があった。

事務局(齋藤事務局長)

定款の改正案で、現行では議事録に署名押印であるが、簡略化して記名押印とすることが提案された。福島県の担当者からは改正についての了解は得ている旨の報告があった。理事会の承認を得て、平成28年度総会に上程することになるので、運用は平成28年度総会以降になる。改正案について異議がなく承認された。理事会時に前回理事会の議事録に署名押印をいただくので、印鑑(認印可)を持参してもらいたい。

会員名簿について、入会・退会・異動等の確認に正確を期するため、地区委員長には原簿を年2回、10月と3月、理事には定期的に4月から隔月項目を限定した名簿を配布する。また、異動や退会手続きが県技師会HP上で出来るようにすることを検討するようネットワーク委員会に要請した。

選挙管理委員の選任は準備期間を確保するために日放技に倣い選挙が開催されない年度に選挙管理委員を選任することが提案され承認された。今年度の選挙管理委員は、任期を平成29年度まで延長するよう再委任する。

3) 報告他

新任会長会議報告

7月12日に当会議が開催(AP浜松町)され、新里会長が参加した。

日放技との学術業務委託契約を交わした。

福島県医師会の甲状腺検査試験委員に佐藤孝則理事が委託された。

緊急連絡網作成し、後日、訓練として一斉メールを配信する。

日本診療放射線技師学会、東北放射線技術学会大会に県技師会代表としてネットワーク委員会の石森さんが発表するため、委嘱状を渡す。

医療従事者の養成校について

福島県の保健医療従事者の養成に係わる有識者会議の提言書がまとまり、内堀知事に手交した。診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師の4年制大学を設立し、将来的には修士/博士課程も設置予定。

メディカルクリエーションふくしま2015について
新里会長が11月11日・12日に開催(ピックパレットふくしま)されるメディカルクリエーションふくしま2015の開会式に出席する。

エーザイ主催で毎年2月に開催されている福島県学術講演会は、業者の事情で今年度が最後の開催となる。

東北地区の女性技師ワーキンググループについて
県内の担当は太田西ノ内病院郡司さんと斉藤さんで、他県のピンクリボン活動を参考にするために他県のピンクリボン活動に参加する予定。

CD自動作成装置購入

既存の装置が故障したため購入(約17万円)した。(購入については承認済み)西ノ内病院に置く。

県北地区所有の電離箱サーベイメータを県技師会で管理してもらいたい旨の要望が佐藤県北地区委員長からあった。管理を県技師会の精度管理委員会が行うことで理事会は了解したが、備品になるので財務上の問題が無いかどうか会計事務所に問い合わせることとした。

福島県立医科大学/長崎大学の共同大学院(修士課程)が福島県立医科大学に設置される。診療放射線技師も入学可能なので、詳細はHPで確認してもらいたい。

その他

日本放射線技師連盟から

日本診療放射線技師会から国会議員を出す目的で作られた団体で、日本診療放射線技師会理事のあざもと氏を推薦している。

アンケート用紙を配布するので記入していただきたい。11月の福島県放射線技師学会大会で回収する。

以上

地区だより

会津地区

「第31回健康まつり in 会津」開催

平成27年9月27日(日)に会津文化センターにて第31回健康まつりが開催されました。会津地区放射線技師会からは、放射線やCT、マンモに関する情報を市民の皆様にはわかりやすいように説明したパネルを作り、それをブースに展示しました。

また、放射線に関するクイズをブースに来場した方たちに出題して、大変盛り上がりました。子供からお年寄りまで、放射線技師会ブースだけでも約400人がご来場いただき、たいへん有意義な1日になりました。(浅川)



県南地区

「ファミリーフェスタ2015」開催

10月4日(日)郡山市カルチャーパークで開催されました。来場者数は約7000人となり昨年を上回ったと発表されました。

女性会員(2名増員)の華やかさと男性会員の呼び込みの甲斐あって、多くの老若男女がいらっしゃいました。(測定152名、ファイル配布数172名)一方で、予想に反してマンモグラフィ等の相談や質問は少なかった様です。今年から女性会員にお手伝いいただいたのでとても残念です。しかしこれに懲りずに継続していくことが大事なのかなと思いました。(濱端)

県北地区

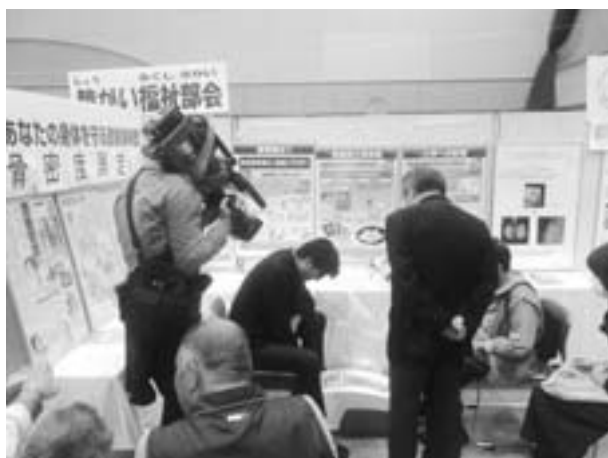
福島市主催「ふくしま健康フェスタ2015」開催

9月27日(日)10時よりMAXふくしま4Fアオウゼで福島健康フェスタが開催されました。

メインテーマは「始めよう! 続けよう! 広げよう! 健康づくり」です。

県北地区協議会では、「最新医療画像の貢献」と題してブースを構え、最新医療画像をポスターやスクリーンを使い展示し、来場された一般の方々はその内容や放射線技師の役割など説明させていただきました。スクリーンによる動画での説明が分かり易く好評でした。

200名近い来場者があり大盛況のうちに終了し、最新の医療画像と検査の関心の高さを感じました。(安藤)



「ピンクリボン in 郡山」開催

平成27年10月25日(日)、ピックパレットふくしまにて開催されました。放技師会ブースでは、マンモグラフィ撮影についてのDVD放映を中心に、MMG撮影から放射線治療など幅広い内容の質問に答えました。

また、東北地区の女性技師ワーキンググループから、山形県・宮城県の女性技師の方にも訪問していただき、ワーキンググループで作成したおにぎりケースを配布して、来場者から好評を得ました。(國分)



「浜通り地区協議会夏期研修会」開催

平成27年9月19日(土)にいわき市立総合福祉センター多目的ホールにて夏期研修会が開催されました。今回、震災後初めて浜地区、相双地区合同の研修会となり30名を超える会員の皆様に参加していただきました。

学術研修会は磐城共立病院循環器内科の高木祐介先生をお迎えして「循環器診療における放射線業務」という演題でお話をいただきました。循環器における画像診断でも医師とのコミュニケーションをはかり、協力できるように日々勉強をする必要性を感じました。(大井)



浜 通 地 区

市民フォーラム「救急医療いわき2015」開催

9月12日(土)にいわき市総合保健センターで行われました。特別講演では、おなかの急病について、消化器内科の松橋先生から、おなかの解剖や疾患急病で入院が必要な状況などについて講演いただきました。また、福島労災病院外科石井先生から、緊急手術についてお話をいただきました。最後に、健康診断を受けて薬で早期に治してほしいこと。夜間だと十分な検査が受けられないこともあり、受診は昼間に来てほしいことを訴えていました。その後、心肺蘇生AEDの実技指導が消防士より指導いただきました。(菅原)



《技師会からののお知らせ》

県技師会からのお願い

毎年、会計の方が会費回収に対して大変苦勞をしています。会費の納入は、定款にも9月末までと記載されています。

技師会の活動は、皆さんの会費で賄われています。県のみ会員にも、コンビニ支払いが出来るように致しました。

何卒、ご協力をお願い致します。

会長 新里 昌一

「会費納入方法」

●JART会員の方

振込み用紙の請求は、JART事務局へお問い合わせください。

JARTご連絡先

(公社) 日本診療放射線技師会事務局 会費収納係
電話：03 - 5405 - 3612 (月～金 9：30～17：30)

●県技師会のみ会員の方

- ・お手元に届けられた振込用紙は12月までご使用できます。
- ・振込用紙を紛失された方は、下記の方法どちらかをご利用ください。

年会費：1万円

(前年度未納の方は併せてご利用ください)

(2) 郵便振替

郵便局備え付けの振替用紙に下記項目を記入の上、窓口(手数料有料)にお出しいただき、

口座番号：02110-6-7186
加入者名：公益社団法人 福島県診療放射線技師会

(3) 銀行振り込み

銀行備え付けの振込用紙に下記項目を記入の上、窓口(手数料有料)にお出しいただき、

東邦銀行 福島区大病院支店 店番号：130 口座番号：33081
公益社団法人 福島県診療放射線技師会 TEL：024-536-1242

メールマガジン登録方法の案内

配信を希望する方は、

fart@star7.jp

に空メールを送信してください。

登録完了メールが届きます。

「医療放射線・環境放射線に関する

リスクコミュニケーションセミナー開催」

のお知らせ

原発事故後、継続して開催して来たセミナーです。今回で最後となりますので、ぜひこの機会にご参加ください。

2015年12月5日(土) 10：00～17：00

コラッセ福島4階 多目的ホール

【参加対象】 福島県および東北地域の診療放射線技師、医療関係者

【参加費】 無料

【目的】

放射線に対する見方や考え方の変化とその背景を再検証する

医療被ばく防護体系確立のための試みを理解する

放射線の理解と合意形成に必要なリスクコミュニケーションを学ぶ

**医療放射線・環境放射線に関する
リスクコミュニケーションセミナー
開催のお知らせ**

概要
新やがら紅葉の候気候にはますますと遷移のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
さてこの度、医療放射線・環境放射線に関するリスクコミュニケーションセミナーを下記の日程で開催いたします。本セミナーでは、原発事故以降を見つめる市民の「放射線に対する見方や考え方の変化」を主題に置きながら、放射線への理解と合意形成に必要な知識やコミュニケーションの術を学んでまいります。
開催日が多岐ゆえにはなりますが、何卒ご参加くださいますようお願い申し上げます。

敬具

【日時】 2015年12月5日(土曜日) 10：00～17：00
【会場】 コラッセ福島4階 多目的ホール
【参加対象】 福島県および東北地域の診療放射線技師、医療関係者
【参加費】 無料
【目的】
① 放射線に対する見方や考え方の変化とその背景を再検証する
② 医療被ばく防護体系確立のための試みを理解する
③ 放射線の理解と合意形成に必要なリスクコミュニケーションを学ぶ

【内容】
第一部
「福島県における環境放射線の現状と健康管理状況」
「原子力災害時対応を振り返る」
第二部①
「診断参考レベル(Diagnostic Reference Level(DRL))の理解」
第二部②
「正しいリスク認知と合意形成に必要なコミュニケーション術」
*詳細は本頁の【プログラム】をご覧ください。

【主催】 公益社団法人 日本放射線技師学会 東北支部
公益社団法人 日本放射線従事者会 放射線防護委員会
【後援】 公益社団法人 福島県診療放射線技師会
【協力】 公益社団法人 日本放射線技師学会 放射線の理解会

詳細は、県技師会HPをご覧ください。

編 集 後 記

9月に行われた磁気共鳴医学会大会に参加しました。学会演題はもちろん、懇親会でも県内・県外の技師の皆さんと交流し、良い刺激を受けてきました。また、東北地区の女性技師ワーキンググループの活動は、女性技師のネットワークを活かした有意義な活動であると言えます。

そういった、県内外で活躍している会員の頑張りを、皆さんに知っていただけるようなニュースにしていければと思います。(國分)